

営農だより 野菜版 3号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2023年(令和5年)5月2日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう!!

ナスの栽培

～排水対策をしっかり行い、乾燥時には灌水を行いましょう!～

1. 特性

高温性の野菜で、夏の暑さにもよく耐え雨にも比較的強い野菜です。日当たりが良く、土壌水分が多く、耕土の深い肥沃な畑が適しています。水分が不足すると、生育が悪くなり収量が上がらないだけでなく、果実のツヤが無くなり、ハダニの被害が多くなるので注意が必要です。ナス・ピーマン・トマトなどのナス科の作物は連作を嫌うので、3～4年程度、栽培をしていない畑を選ぶと良いでしょう。

①発芽地温：25～30℃ ②生育適温：20～28℃

※微酸性～中性のpH6～7が適している。

2. 施肥

(1a当り)

	資材名	施肥量	価格(税込)	備考
堆肥	牛ふん堆肥	200kg	530円(15kg)	定植の2週間前に施用
土壌改良材	苦土石灰(粒)	8kg	538円(20kg)	
	粒状ようりん	6kg	3,100円(20kg)	
元肥	園芸化成s550	8kg	4,820円(20kg)	定植の1週間前に施用
	ジシアン有機s806	4kg	4,120円(20kg)	

3. 播種と育苗

①128穴のセルトレイに1粒ずつ播種⇒5mm程覆土する⇒たっぷり水やりをする。

②保温マットを使用し夜25℃～昼30℃で保温し5～7日程度で発芽させる。

※無加温であれば、5月上旬が播種適期となる。

③苗が育ち、本葉が3～4枚程度になったら12～15cmポットに移植する。

※販売されている苗は9cmポット(本葉6～7枚)の若苗が多いので、12～15cmポットに鉢上げして1番花が開花する直前まで育苗すると良い。

※小さなポットで育苗すると根が巻いてしまい、定植後も草勢が強くない。

4. 定植

1番花がふくらんで紫色に着色し始めた頃が適期。

・若苗定植 ⇒過繁茂になり、石ナスになりやすい。

・老化苗定植⇒活着不良になり、だんだん草勢が弱くなる。

草勢が弱くなると収量低下を引き起こす。

※老化苗定植や植え痛みで活着不良になった場合は、薄めの液肥を数回与えるか1番花を摘果して、草勢の回復を図ると良いでしょう!!

①定植の目安は5月中旬頃。(1番花の開花直前苗が適期)

②2週間前からハウスより出し、環境にならしておく。(馴化作業)

③マルチは天気の良い日に早めに張り、地温を高めておく。

④定植前にナスのポットと植穴にたっぷりと灌水しておく。

⑤定植時にアブラムシ対策としてダントツ粒剤1gを株元に散布する。

【ダントツ粒剤】(1kg)
価格(税込)1,240円

定植時、深植えに注意する。特に接ぎ木苗は接合部が土に埋まらないように注意しましょう!

農業大学校

～農業大学校の講習内容を営農だよりでお伝えします～

<2年生の活動>

4月28日(金)に、ナスのポットへの移植、トウモロコシの圃場への移植を行いました。今回の営農だよりでは、トウモロコシの移植をご紹介します。

～トウモロコシの移植～

前号の営農だよりでも紹介しました、セルトレイに播種したトウモロコシの移植を行いました。

①作付け場所の草取りを行う。

②耕運を行う。

③グリーン400を1歩につき1掴み+半掴み、富士高原有機ペレット(鶏糞)を1歩につき1掴み+半掴み分ずつ撒き、鍬で土と混ぜ平らにする。

④畝間180cm、畝幅85cmの畝をつくり、マルチ(135cm千鳥2条黒マルチ)を張る。

⑤セルトレイに播種し、2.5葉まで成長したトウモロコシを、フォークを使ってセルトレイから抜き、マルチの穴に植え付ける(本葉2～3枚の若苗を定植する)。



～使用資材～

元肥	新グリーン400	5,660円
元肥	富士高原有機ペレット	298円
マルチ	135cm千鳥2条黒マルチ3230	5,544円

今後も、トウモロコシの栽培の様子や、その他の活動の様子を掲載してまいります。日々の栽培の参考にさせていただければ幸いです。

春菊の栽培

～酸性土壌・乾燥に弱いため、苦土石灰をきちんと施用し、こまめな水やりを心がけましょう！！～

1. 特性

①発芽適温：15～20℃ ②生育適温：15～20℃

- ・比較的低めの温度を好み、35℃以上の高温、10℃以下の低温では発芽が著しく悪くなる。
- ・冷涼な気候を好む。25℃以上になると生育が悪くなる。

2. 発芽のポイント

乾燥しないよう、たっぷり灌水してから蒔く事が重要。春菊の種子は硬く、水を吸収しにくい性質をもっている。一昼夜水に浸すと水がまっ茶色になり、発芽抑制物質が除去され発芽が良くなる。種子の発芽はやや好光性であるので、播種後の覆土は薄めとする。乾燥防止に稲わらやベタがけ資材などを被覆すると良い。また、高温期には地温の上昇を防ぐ。

3. 害虫対策

- ・播種直後に、害虫の被害を防止する為に防虫ネットをトンネル全体に覆いましょう！！

4. 施肥

(1a 当り)

	資材名	施肥量	価格	備考
土壌改良材	苦土石灰(粒)	12kg	538円(20kg)	播種の2週間前に施用
元肥	園芸化成s550	12kg	4,820円(20kg)	播種の1週間前に施用
追肥	〃	2kg	〃	収穫の度

5. 栽植密度

- ・条間20cmのすじまきとし、本葉5枚までに株間15cm間隔とする。

6. 収穫

摘み取り収穫型品種は、本葉10枚ほどになったら下葉を3～4枚残して上の葉をハサミで切り取る。わき芽が伸びてきたら下葉を1～2枚残してハサミで切り取る。

7. 防除

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り使用液量	使用回	収穫前	価格(税込)
Zボルドー	べと病	500倍	10～30ℓ	—	—	1,070円(500g)
アミスター-2070アブ	炭疽病	2,000倍	10～30ℓ	2	前日まで	4,010円(250ml)
カスケード乳剤	マメハモグリバエ	2,000～4,000倍	10～30ℓ	2	7日前ま	5,720円(250cc)

チンゲン菜の栽培

～夏の暑さにも強く、土壌もあまり選ばないが、乾燥しやすい土の場合には、こまめに水やりを行いましょう！！～

1. 特性

暑さ寒さに強く厳寒期にも生育するが、冬期から春先にかけて抽苔しやすいので注意する。

①発芽適温：20～25℃ ②生育適温：15～20℃

※気温の変化に強いため5～35℃程度までは生育可能。

2. ほ場選定

ハクサイなどを栽培して病気が多く発生した様な畑は避ける。

3. 播種

- ・植え付け面積1a当たり2mlの種子が必要。
- ・2～3cm四方に1粒ぐらいの間隔でまく。
- ・覆土は1cm程度とし、軽く手で押さえしっかりと水をやる。

4. 間引き

- ・生育するにつれ2回間引きする(1回目は本葉2枚時、2回目は本葉3～4枚時)。終株間を20cm程度とし、株張りのよい株に育てる。

5. 施肥(1a当り)

	資材名	施肥量	価格(税込)	備考
堆肥	牛ふん堆肥	300kg	530円(15kg)	播種の2週間前に施用
土壌改良材	苦土石灰(粒)	15kg	538円(20kg)	
元肥	新FTE 燐硝安加里s2	8kg	4,750円(20kg)	播種の1週間前に施用

※本葉4～5枚のころ1回目の追肥として新FTE 燐硝安加里s280を3kgほど追肥。以後、20日に1回(3kg)ほど追肥をする。

6. 防除

- ・雨よけや防虫ネットで被害の軽減を図る。
- ・キスジノミハムシ対策として播種前にフォース粒剤を土壌混和する。

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り使用量	使用回数	収穫前	価格(税込)
※フォース粒剤	キスジノミハムシ	—	0.4kg	使用回数1回で播種時に全面土壌		3,070円(3kg)
※アグロスリン乳	アブラムシ類	2,000倍	10～30ℓ	2回	前日まで	1,020円(100cc)

※毒劇物の為、購入する際には認印を持参して下さい。

7. 収穫

- ・間引き菜から順次収穫する。(根元を持って根ごと引き抜くか、刃物で根を切る)
- ・大きさ目安は、草丈20cm程度、株元の直径が4～5cm程度。
- ・生育日数35～70日で収穫。(栽培時期により異なる。)